

ベトナム現地情報（2023.02.14）

ジャパン証券 北山亨

第 22 回「ベトナムのコーヒー」

ベトナムに来て驚くのが、カフェの数である。休日ともなれば、話に花を咲かせる若者でカフェは溢れかえる。

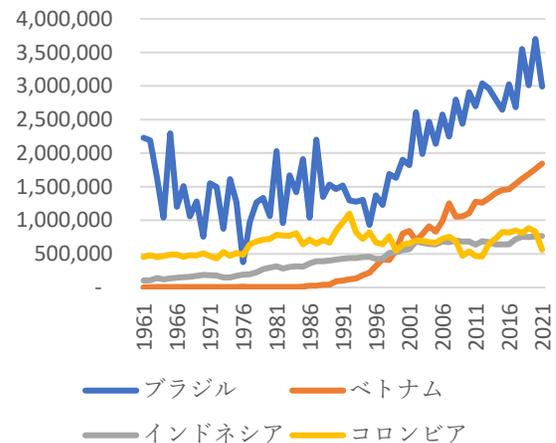
そのベトナムのカフェ文化を支えているのが、コーヒーだ。何を隠そう、ベトナムは世界有数のコーヒー豆の産地であり、その生産量はブラジルに次ぐ、堂々の世界 2 位である。農業農林開発省のデータによれば、農産物の国外輸出金額でコーヒー豆は 20 億ドルを超える主力品目¹の一つとなっている。

フランス植民地時代に持ち込まれたコーヒー豆だが、今日のように生産量が大きく増加したのは、1986 年からのドイモイ政策以降である。Trung Nguyên（1996 年）や Highlands Coffee（1998 年）といった大手コーヒーチェーンもこの次期に誕生した。1990 年代後半には、生産量は南米のコロンビアを抜き、ブラジルに次ぐ世界 2 位となっている。2022 年の輸出額は前年から 32% 増の 40 億米ドル以上となった。EU はベトナム産コーヒーにとって有力な消費市場であり、輸出量の約 4 割を占めている。ちなみに日本向けの輸出金額はドイツ、米国、イタリアに次いで 4 番目に多い。



ハノイ名物のエッグコーヒー。冬に飲むと温まる。JSI 撮影

コーヒー豆の生産量（単位：トン）



出所：FAO（国連食糧農業機関）

¹ コーヒー、ゴム、米、野菜、カシューナッツ、エビ、パンガシウス、木製品が含まれる。

ベトナムで生産されるコーヒー豆はロブスタ種とって、インスタントコーヒーや缶コーヒーの原材料として使われることで有名だ。日本では5月から某缶コーヒーが25年ぶりに値上げされるというニュースを聞くが、実際にロブスタ種の価格は、およそ5年ぶりの高値水準となっている。

ロブスタ種はブラジルなどで生産されるアラビカ種と比べて、渋みや苦みが強いのが特徴だ。ベトナム現地のカフェでは「Cà phê sữa đá」という、コンデンスミルク（※sữaはミルク、đáは氷）を入れて飲むことも多い。

なぜコンデンスミルクかということ、その昔ベトナムでは牛乳を飲む習慣がなく、植民地時代のフランス人は本国から牛乳を取り寄せなければならなかった。しかし牛乳は腐ることから代替品としてコンデンスミルク使われることになった。試してみると分かるが、ベトナムコーヒーとコンデンスミルクの相性は抜群である。ちなみに国内乳業最大手のビナミルク（VNM）はコンデンスミルクも手掛けており、スーパーに行くと同社の製品をよく見かける。

コーヒーに関連した企業を見ていきたい。例えば、国内小売り大手のマサングループ

（MSN）は Phuc Long Coffee & Tea を全国で展開している。特に最近では自社の小売店に併設させる動きを見せており、カフェと買い物の相乗効果に力を入れている。昨年は44店舗を新規出店させ、買収時と比べて店舗数は2倍の132店舗に増えた。国内の競合他社との距離は縮まっており、既に売上は業界2位、粗利率は業界1位を獲得している。23年第2四半期には店舗

ロブスタ種の価格推移



出所：Bloomberg

ベトナムの主なカフェチェーン

Highlands Coffee	597店舗
THE COFFEE HOUSE	154店舗
Phuc Long Coffee & Tea	132店舗
Starbucks	89店舗
Cong Ca Phe	60店舗
Chuk Chuk	56店舗
King Coffee	26店舗

出所：各公式ページより JSI 作成
2023年2月8日時点



写真：マサングループの店舗に併設する Phuc Long Coffee & Tea。JSI 撮影

数で国内2位に躍り出る予定だ。ちなみにマシングループは、インスタントコーヒー国内大手の Vinacafe Bien Hoa (VCF) を傘下に抱えていることでも有名である。

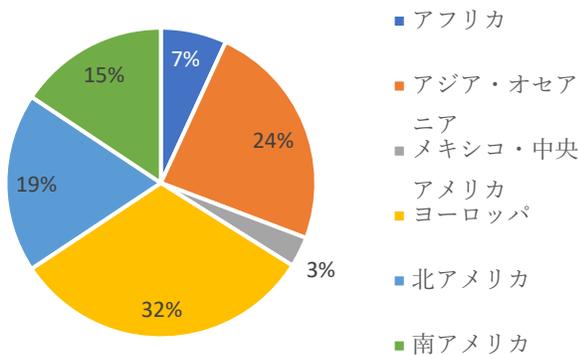
変わり種ではビールメーカー大手のサイゴンビール・アルコール飲料 (SAB) が挙げられる。同社は昨年9月にコーヒー風味のビール「BIA SAIGON COFFEE INFUSED BEER」を初めて販売し、話題になった。

世界のコーヒー豆の輸入量は伸びており、ここ数年ではアジア・オセアニア地域の伸びが顕著だ。ベトナムコーヒーココア協会は、昨年末にベトナムのコーヒー消費がここ数年で5~10%の成長すると予想を発表している。



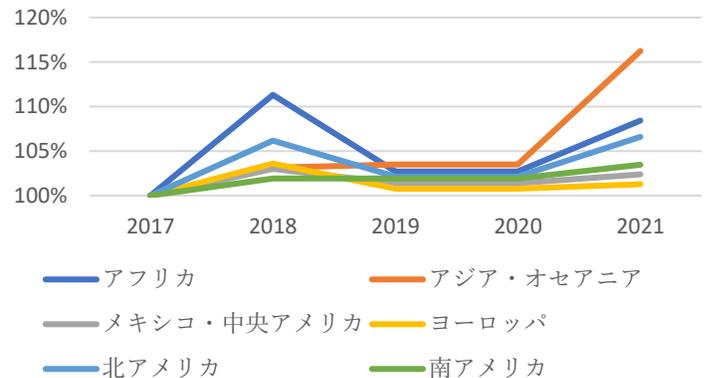
写真：コンビニで販売されていたコーヒー味のビール。値段は22,000ドン（約123円）。JSI撮影
※1ドン=0.005586円で計算（2023年2月10日時点、ブルームバーグを参照）

2021年の地域別コーヒー消費量



出所：International Coffee Organization

地域別の年間消費量（2017年基準）



出所：International Coffee Organization

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。